

令和7年度 中学生の「税についての作文」

沖縄県納稅貯蓄組合連合会会長賞 10年後の私へ

沖縄尚学高等学校附属中学校 神谷 実玖

10年後の私は元気にしているかな。中学3

感じました。

年生の私は最近、学校の授業で税金について学びました。それまで税金というものは「人が払うもの」で、正直、自分にはあまり関係がないと思つていました。時々「税金って払わなきゃいけないものなんだろうな」と思つていたけど、それ以上深く考えることはなかったんです。でも、社会科の授業で「日本の借金」について学んだとき、「私はすぐ驚きました。国の借金がなかなか減らない理由の一つに「税金の使い道」があると知つて、初めて税金について現実的に考えるようになつたんです。振り返ると、子どもの医療費が無料だつたり壊れた道路がすぐに直されたり、毎日使つている教科書や学校の設備にだつて、すべてお金がかかっていることを実感しました。そして、そのお金のほとんどが税金によつて支えられているということに改めて気づかされました。

調べてみると、税金にはいろんな種類があることも知りました。消費税や所得税のよくな身近なものから、「入湯税」という、温泉地で使われる税金まであるんだなと知つたときは本当に驚きました。この税金は、温泉地の環境保全や観光施設の整備に使われているそうです。日本ならではの文化や自然を守るために税金が役立つていて感動し、「税金ってただ取られるものじゃないんだ」と

税金というと、つい「取られる」「負担」といったイメージが強いかもしれません。でも今の私は、税金は「支え合い」の仕組みであり、未来を守るために必要不可欠なものだと実感しています。

10年後の私はきっと、働いて毎月税金を納める立場になつているはずです。そのとき、税金が引かれるたびに「こんなに引かれるの?」と思うことがあるかもしれません。でも、そのときにはこの手紙を思い出してほしいです。税金がどれだけ多くの人々の暮らしを支えているのか、私は今しっかりと理解しています。税金を通じて、人々が見えないとこも、それがどれだけ大切なものが忘れないでいてください。私たちが暮らしていくためには、みんなが少しずつ支え合つていてからこそ、安心して生活できているんです。

どうかこれからも、「税金は未来を作るものだ」と思つて、納める」と誇りに感じてほしいです。そして、今感じた「支え合いの心」をずっと大切にして、周りの人々と助け合つて生きていってください。そうすることでも、私たちの未来は少しでも明るくなつています。